

業況 DI は 0.6 ポイントの低下、建設業が大きく改善

～令和5年1－3月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和5年1－3月期の調査結果と併せてご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は低下。前期3ヵ月後見込よりは上昇 ～
総合の業況 DI は、前期比 0.6 ポイント低下の▲34.2 となりました。前期の3ヵ月後見込（▲39.7）よりは 5.5 ポイントの上昇となりました。

また、今後については3ヵ月後が現在比 2.6 ポイント低下の▲36.8（前期の半年後見込▲38.7）、半年後が同 0.5 ポイント上昇の▲33.7 ポイントを見込み、次期についても前期の見込より上昇する見方がされています。しかし、引き続き物価高騰や価格転嫁の問題など、先行きは厳しいとの声が上がっています。

2. 業種別特徴 ～ 業況・売上 DI、建設業が大幅上昇 ～

製造業の業況 DI は前期比 3.1 ポイント低下の▲30.7 で、前期見込（▲31.9）を上回りました。中分類で見ると、一般機械（同 5.6 ポイント低下の▲25.6）と電気機械（同 2.3 ポイント低下の▲23.8）は低下、輸送用機械（同 0.9 ポイント上昇の▲37.7）は上昇となりました。

建設業の業況 DI は同 13.5 ポイント上昇の▲6.2 となり、前期見込（▲21.3）も大きく上回りました。例年年度末にかけて上向く傾向にありますが、今期は前年、前々年以上の上昇となりました。

商業・サービス業の業況 DI は同 1.7 ポイント低下の▲42.5 で、前期見込（▲49.2）を上回りました。内訳を見ると、卸売業が同 13.9 ポイント低下の▲45.6、小売業が同 1.7 ポイント上昇の▲45.7、飲食店が同 3.3 ポイント上昇の▲50.0、サービス業が同 1.0 ポイント低下の▲31.3 となり、業種によってばらつきがありました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比 0.5 ポイント低下の▲31.2（前期の半年後見込▲29.5）、建設業が同 15.2 ポイント低下の▲21.4（同▲29.2）、商業・サービス業が同 1.3 ポイント低下の▲43.8（同▲47.0）、半年後は製造業が同 3.7 ポイント上昇の▲27.0、建設業が同 16.5 ポイント低下の▲22.7、商業・サービス業が同 2.2 ポイント上昇の▲40.3 となるなど、3ヶ月後は全ての業種が現在比で低下、半年後は製造業と商業・サービス業が上昇、建設業が低下を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 業況 DI、中規模・小規模企業でばらつき ～

中規模企業の業況 DI は前期比 1.7 ポイント低下の▲29.3、小規模企業の DI は同 0.4 ポイント上昇の▲40.0 となりました。売上 DI は中規模企業が同 11.2 ポイント低下の▲14.9、小規模企業が同 7.6 ポイント低下の▲31.7、採算 DI は中規模企業が同 1.0 ポイント低下の▲34.6、小規模企業が同 2.6 ポイント低下の▲42.3 となりました。前期大きく上昇（17.4 ポイント）した中規模企業の売上 DI は大きく低下しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、4地区で前期3ヵ月後見込より上昇 ～

前期より業況DIが上昇したのは4地区（横浜、川崎、厚木、足柄上・西湘）、低下したのは同じく4地区（横須賀、平塚、藤沢、相模原）でした。特に変化の大きかったのは相模原地区（前期比16.0ポイント低下）と藤沢地区（同9.3ポイント低下）でした。また、相模原地区を除いた7地区が前期の3ヵ月後見込を上回っています。

一方、3ヵ月後は現在比で横須賀地区を除く7地区が現在より低下すると見込んでいます。前期の半年後見込との比較では5地区（横浜、川崎、横須賀、平塚、厚木）が上回り、3地区（藤沢、相模原、足柄上・西湘）が下回っています。

半年後では現在比で横浜、横須賀、相模原、足柄上・西湘の4地区で上昇、その他の4地区で低下を見込んでいます。

地 区	今期業況DI（前期比／ 前期3ヵ月後見込）	増 減	同3ヵ月後見込 （同半年後見込）	増 減	同半年 後見込
横浜	▲33.9（5.1ポイント上昇／▲44.4）	↓	▲36.0（▲39.8）	↑	▲27.3
川崎	▲30.1（3.0ポイント上昇／▲38.0）	↓	▲37.8（▲44.6）	↓	▲33.3
横須賀	▲39.6（3.4ポイント低下／▲47.8）	↑	▲33.7（▲42.2）	↑	▲34.8
平塚	▲39.4（5.5ポイント低下／▲47.2）	↓	▲42.7（▲49.1）	↓	▲48.5
藤沢	▲29.3（9.3ポイント低下／▲33.3）	↓	▲35.6（▲26.9）	↓	▲33.3
相模原	▲42.6（16.0ポイント低下／▲33.3）	↓	▲44.1（▲37.0）	↑	▲39.1
厚木	▲25.0（8.3ポイント上昇／▲29.9）	↓	▲29.0（▲32.7）	↓	▲29.3
足柄上・西湘	▲35.0（3.2ポイント上昇／▲37.3）	↓	▲36.5（▲34.7）	↑	▲33.0

※ 増減は今期業況DI（斜体）と同3ヵ月後見込、同半年後見込との比較。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 経営状況では「売上」が上昇。建設業の回復が顕著。卸売業は低下 ～

経営状況では、「売上」が前期比9.2ポイント低下の▲22.5となりました。業種別では、製造業が前期比14.5ポイント低下の▲25.1、商業・サービス業が同9.9ポイント低下の▲24.6となった一方、建設業が同9.4ポイント上昇の▲5.4と大幅に上昇しました。

また、商業・サービス業のうち、卸売業は売上（同24.6ポイント低下の▲29.5）、採算（同7.7ポイント低下の▲41.0）、引き合い／客数（同14.7ポイント低下の▲27.6）、単価（同12.9ポイント低下の1.0）がいずれも低下しました。

コメントでは、「コロナの終息、ウクライナ問題のエネルギー不足、半導体の調達不足の見通しがつかない限り、不明です。」「何もかも値上がりし大変。電気やガスの値上がりも痛い。何とか頑張っていきたい。」などの声が上がっていました。その他として、原材料費や燃料費等の高騰、半導体不足、価格転嫁ができないといった声が多く寄せられました。

【調査要領】

調査時期：令和5年2月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：965社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 上野

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和5年1-3月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは0.6ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和5年1-3月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和5年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：970社（48.5%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	335	60.9%
建設業	250	113	45.2%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	522	43.5%
合計	2,000	970	48.5%

2. 調査結果

（1）総合

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲37.7	▲40.4	▲33.6	▲34.2	▲36.8	▲33.7
売上DI	▲23.4	▲27.7	▲13.3	▲22.5	—	—
採算DI	▲40.1	▲41.8	▲36.5	▲38.1	—	—

総合の業況DIは、前期比0.6ポイント低下の▲34.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比9.2ポイント低下の▲22.5、また、採算DIは同1.6ポイント低下の▲38.1となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比2.6ポイント低下の▲36.8、半年後は同0.5ポイント上昇の▲33.7を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲28.2	▲29.8	▲27.6	▲30.7	▲31.2	▲27.0
売上DI	▲19.3	▲19.8	▲10.6	▲25.1	—	—
採算DI	▲42.6	▲39.3	▲38.7	▲39.5	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比3.1ポイント低下の▲30.7となった。

経営状況では、売上DIは、前期比14.5ポイント低下の▲25.1、採算DIは同0.8ポイント低下の▲39.5となった。

「大幅な受注減により、コスト増と合わせて採算悪化している。」「生産財全てが価格上昇しているが、それを価格転嫁出来ない。また、車のEV化がどのようになるか予想が難しい。」

「半導体不足による減産が続いており厳しさを増しているように思われる。加えて電気代・燃料費など経費の上昇があるが、加工費は据え置きのみである。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.5ポイント低下の▲31.2、半年後は同3.7ポイント上昇の▲27.0を見込んでおり、「電気用品の流通に改善がみられる。しかしながら、メーカーには大量の受注残が残っており、コロナ禍以前の状況に戻るのには、まだ先ようです。」「コロナの終息、ウクライナ問題のエネルギー不足、半導体の調達不足の見通しがつかない限り、不明です。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
一般機械	▲22.1	▲27.6	▲20.0	▲25.6	▲20.5	▲17.9
電気機械	▲16.9	▲19.5	▲21.5	▲23.8	▲38.8	▲30.4
輸送用機械	▲45.3	▲30.9	▲38.6	▲37.7	▲38.5	▲30.8
その他	▲32.2	▲37.4	▲32.0	▲35.8	▲29.8	▲29.2

中分類で見ると、一般機械は前期比5.6ポイント低下の▲25.6、電気機械は同2.3ポイント低下の▲23.8、輸送用機械は同0.9ポイント上昇の▲37.7となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比5.1ポイント上昇の▲20.5、電気機械が同15.0ポイント低下の▲38.8、輸送用機械は同0.8ポイント低下の▲38.5、半年後は一般機械が同7.7ポイント上昇の▲17.9、電気機械が同6.6ポイント低下の▲30.4、輸送用機械は同6.9ポイント上昇の▲30.8を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲16.8	▲21.3	▲19.7	▲6.2	▲21.4	▲22.7
売上DI	▲37.8	▲18.0	▲14.8	▲5.4	—	—
採算DI	▲37.3	▲35.2	▲31.1	▲25.9	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比13.5ポイント上昇の▲6.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比9.4ポイント上昇の▲5.4、採算DIは同5.2ポイント上昇の▲25.9となった。

「建設関連施工業者が減ったのか、皆忙しいのか分かりませんが、引き合いが増え、物件が大型化してきている。空調工事より衛生工事が増している。」「コロナ一段落で、ホテル・旅館の引き合い増えて来ました。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比15.2ポイント低下の▲21.4、半年後は同16.5ポイント低下の▲22.7を見込んでおり、「工事案件の引き合いは多少増加の傾向にあるが、競合先も多く、また部材等の値上がりによる工事金額の増加による計画の見直し等が懸念され、先行きは不透明な状況が続くと予想する。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲48.5	▲51.2	▲40.8	▲42.5	▲43.8	▲40.3
売上DI	▲22.6	▲34.7	▲14.7	▲24.6	—	—
採算DI	▲39.2	▲44.8	▲36.3	▲39.8	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比1.7ポイント低下の▲42.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比9.9ポイント低下の▲24.6、採算DIは同3.5ポイント低下の▲39.8となった。「お客様の世代交代。コロナ、仕入、流通、ネット、銀行などのサービス低下。プラス材料がない。」「光熱費の値上げ、仕入価格の上昇などで、利益率が悪くなってきて、資金繰りが厳しくなっている。」「ガス代等、経費が倍くらいになってきています。売上の変動がなくても経費かかっているれば、利益減。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.3ポイント低下の▲43.8、半年後は同2.2ポイント上昇の▲40.3を見込んでいる。「何もかも値上がりし大変。電気やガスの値上がりも痛い。何とか頑張っていきたい。」「寒さと値上げの影響で、買い控えが始まったようだ。単価が低く、売上につながらない。春になるのを期待したい。」「売上が多少上昇傾向になっても、燃料費（電気、重油）が上がりすぎて苦しい。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
卸売業	▲42.7	▲46.7	▲31.7	▲45.6	▲48.5	▲36.1
小売業	▲56.6	▲60.9	▲47.4	▲45.7	▲53.0	▲49.8
飲食店	▲48.6	▲63.5	▲53.3	▲50.0	▲37.9	▲29.3
サービス業	▲39.4	▲31.6	▲30.3	▲31.3	▲27.5	▲32.3

業種別では、卸売業は前期比13.9ポイント低下の▲45.6、小売業は同1.7ポイント上昇の▲45.7、飲食店は同3.3ポイント上昇の▲50.0、サービス業は同1.0ポイント低下の▲31.3となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比2.9ポイント低下の▲48.5、小売業は同7.3ポイント低下の▲53.0、飲食店は同12.1ポイント上昇の▲37.9、サービス業は同3.8ポイント上昇の▲27.5、半年後では卸売業が同9.5ポイント上昇の▲36.1、小売業は同4.1ポイント低下の▲49.8、飲食店は同20.7ポイント上昇の▲29.3、サービス業は同1.0ポイント低下の▲32.3を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和4年			令和5年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
中規模	業況DI	▲29.3	▲33.4	▲27.6	▲29.3	▲32.2	▲28.3
	売上DI	▲15.1	▲21.1	▲3.7	▲14.9	—	—
	採算DI	▲36.3	▲39.8	▲33.6	▲34.6	—	—
小規模	業況DI	▲47.1	▲48.1	▲40.4	▲40.0	▲42.5	▲40.1
	売上DI	▲32.8	▲35.1	▲24.1	▲31.7	—	—
	採算DI	▲44.4	▲44.0	▲39.7	▲42.3	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比1.7ポイント低下の▲29.3、小規模企業は同0.4ポイント上昇の▲40.0となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比11.2ポイント低下の▲14.9、採算DIが同1.0ポイント低下の▲34.6、小規模企業は売上DIが同7.6ポイント低下の▲31.7、採算DIが同2.6ポイント低下の▲42.3となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比2.9ポイント低下の▲32.2、半年後が同1.0ポイント上昇の▲28.3、小規模企業は3か月後が同2.5ポイント低下の▲42.5、半年後が同0.1ポイント低下の▲40.1を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和4年			令和5年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
横浜	▲37.5	▲45.2	▲39.0	▲33.9	▲36.0	▲27.3
川崎	▲35.8	▲30.1	▲33.1	▲30.1	▲37.8	▲33.3
横須賀	▲44.3	▲39.2	▲36.2	▲39.6	▲33.7	▲34.8
平塚	▲46.5	▲48.6	▲33.9	▲39.4	▲42.7	▲48.5
藤沢	▲18.2	▲22.5	▲20.0	▲29.3	▲35.6	▲33.3
相模原	▲36.6	▲43.5	▲26.6	▲42.6	▲44.1	▲39.1
厚木	▲33.6	▲38.4	▲33.3	▲25.0	▲29.0	▲29.3
足柄上・西湘	▲51.0	▲49.0	▲38.2	▲35.0	▲36.5	▲33.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比5.1ポイント上昇の▲33.9）、川崎地区（同3.0ポイント上昇の▲30.1）、横須賀地区（同3.4ポイント低下の▲39.6）、平塚地区（同5.5ポイント低下の▲39.4）、藤沢地区（同9.3ポイント低下の▲29.3）、相模原地区（同16.0ポイント低下の▲42.6）、厚木地区（同8.3ポイント上昇の▲25.0）、足柄上・西湘地区（同3.2ポイント上昇の▲35.0）となり4地区で上昇し、4地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比2.1ポイント低下の▲36.0）、川崎地区（同7.7ポイント低下の▲37.8）、横須賀地区（同5.9ポイント上昇の▲33.7）、平塚地区（同3.3ポイント低下の▲42.7）、藤沢地区（同6.3ポイント低下の▲35.6）、相模原地区（同1.5ポイント低下の▲44.1）、厚木地区（同4.0ポイント低下の▲29.0）、足柄上・西湘地区（同1.5ポイント低下の▲36.5）となり1地区で上昇し、7地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比6.6ポイント上昇の▲27.3）、川崎地区（同3.2ポイント低下の▲33.3）、横須賀地区（同4.8ポイント上昇の▲34.8）、平塚地区（同9.1ポイント低下の▲48.5）、藤沢地区（同4.0ポイント低下の▲33.3）、相模原地区（同3.5ポイント上昇の▲39.1）、厚木地区（同4.3ポイント低下の▲29.3）、足柄上・西湘地区（同2.0ポイント上昇の▲33.0）となり4地区で上昇し、4地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 上野

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和5年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		335	113	105	225	61	131	522	970
業況判断	現在の業況	▲30.7	▲6.2	▲45.6	▲45.7	▲50.0	▲31.3	▲42.5	▲34.2
	3ヶ月後の業況	▲31.2	▲21.4	▲48.5	▲53.0	▲37.9	▲27.5	▲43.8	▲36.8
	半年後の業況	▲27.0	▲22.7	▲36.1	▲49.8	▲29.3	▲32.3	▲40.3	▲33.7
経営状況	売上	▲25.1	▲5.4	▲29.5	▲30.7	▲8.2	▲17.7	▲24.6	▲22.5
	採算	▲39.5	▲25.9	▲41.0	▲42.0	▲44.3	▲33.1	▲39.8	▲38.1
	引き合い／客数	▲18.6	▲14.3	▲27.6	▲36.2	▲23.0	▲17.7	▲28.3	▲23.3
	単価	8.8	2.7	1.0	▲14.0	▲1.6	▲7.8	▲7.9	▲0.9
	仕入価格	▲84.7	▲76.6	▲80.0	▲78.6	▲96.7	▲65.6	▲77.8	▲80.1
	資金繰り	▲29.6	▲12.5	▲30.5	▲40.4	▲47.5	▲24.4	▲35.2	▲30.6
	残業	▲14.7	▲12.6	▲23.3	▲17.9	▲18.0	▲14.7	▲18.2	▲16.3
	設備稼働	▲16.2	▲6.6	—	—	—	—	—	▲13.9
前期経営実績	売上水準	▲11.6	▲13.3	▲24.8	▲29.3	▲32.8	▲18.5	▲26.1	▲19.6
	利益水準	▲3.0	0.9	▲11.5	▲26.2	▲34.4	▲11.5	▲20.5	▲12.0
	在庫	14.1	▲4.0	11.8	5.4	0.0	▲15.3	1.2	5.2
	投資	▲4.9	▲3.8	▲14.9	▲18.6	▲20.0	▲5.8	▲15.0	▲10.2
	雇用状況	▲22.5	▲50.0	▲8.7	▲13.2	▲33.9	▲30.8	▲19.1	▲23.9

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和4年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		350	122	102	235	60	135	532	1,004
業況判断	現在の業況	▲27.6	▲19.7	▲31.7	▲47.4	▲53.3	▲30.3	▲40.8	▲33.6
	3ヶ月後の業況	▲31.9	▲21.3	▲55.4	▲55.0	▲54.2	▲31.5	▲49.2	▲39.7
	半年後の業況	▲29.5	▲29.2	▲45.5	▲53.9	▲45.8	▲36.2	▲47.0	▲38.7
経営状況	売上	▲10.6	▲14.8	▲4.9	▲23.5	▲10.0	▲8.9	▲14.7	▲13.3
	採算	▲38.7	▲31.1	▲33.3	▲42.1	▲46.7	▲23.7	▲36.3	▲36.5
	引き合い／客数	▲11.5	▲9.9	▲12.9	▲33.8	▲18.3	▲21.8	▲25.0	▲18.5
	単価	16.5	9.0	13.9	▲19.7	▲15.3	▲4.5	▲9.0	2.1
	仕入価格	▲84.8	▲78.7	▲78.0	▲82.8	▲89.8	▲66.9	▲78.7	▲80.8
	資金繰り	▲33.7	▲13.4	▲30.4	▲40.3	▲44.8	▲22.0	▲34.3	▲31.6
	残業	▲13.5	▲7.4	▲16.0	▲14.7	▲6.8	▲12.1	▲13.4	▲12.7
	設備稼働	▲15.7	▲1.7	—	—	—	—	—	▲12.2
前期経営実績	売上水準	▲24.9	▲21.3	▲26.5	▲42.1	▲59.3	▲20.0	▲35.4	▲30.0
	利益水準	▲7.5	0.8	▲22.5	▲32.6	▲55.0	▲5.3	▲26.3	▲16.5
	在庫	14.5	▲2.7	8.9	▲2.2	0.0	▲13.4	▲2.3	3.6
	投資	▲5.5	▲5.2	▲15.2	▲12.8	▲25.4	▲8.1	▲13.6	▲9.7
	雇用状況	▲21.6	▲49.6	▲6.0	▲16.2	▲40.0	▲34.1	▲21.5	▲24.9

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		180	155	59	54	290	232	529	441
業 況 判 断	現在の業況	▲27.8	▲34.2	▲1.7	▲11.1	▲35.9	▲50.6	▲29.3	▲40.0
	3ヶ月後の業況	▲31.6	▲30.6	▲15.3	▲28.3	▲36.0	▲53.6	▲32.2	▲42.5
	半年後の業況	▲23.2	▲31.7	▲17.2	▲28.8	▲33.9	▲48.2	▲28.3	▲40.1
経 営 状 況	売上	▲22.2	▲28.6	6.8	▲18.9	▲14.8	▲36.8	▲14.9	▲31.7
	採算	▲41.1	▲37.7	▲22.0	▲30.2	▲33.1	▲48.3	▲34.6	▲42.3
	引き合い／客数	▲13.3	▲24.7	0.0	▲30.2	▲19.3	▲39.6	▲15.1	▲33.2
	単価	11.8	5.2	10.2	▲5.7	5.2	▲24.3	8.0	▲11.7
	仕入価格	▲86.1	▲83.1	▲76.3	▲76.9	▲72.9	▲84.1	▲77.8	▲82.9
	資金繰り	▲25.1	▲34.8	▲6.8	▲18.9	▲30.0	▲41.7	▲25.8	▲36.5
	残業	▲12.2	▲17.5	▲3.4	▲23.1	▲14.6	▲22.8	▲12.5	▲20.9
	設備稼働	▲14.0	▲18.8	5.1	▲21.3	—	—	▲9.2	▲19.4
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲5.0	▲19.4	▲5.1	▲22.2	▲17.9	▲36.4	▲12.1	▲28.6
	利益水準	2.2	▲9.0	16.9	▲16.7	▲12.8	▲30.3	▲4.3	▲21.1
	在庫	13.6	14.8	0.0	▲8.9	1.4	0.9	5.5	4.8
	投資	▲2.8	▲7.3	3.4	▲12.8	▲10.0	▲21.2	▲6.0	▲15.2
	雇用状況	▲28.3	▲15.7	▲50.8	▲49.1	▲25.3	▲11.2	▲29.2	▲17.4

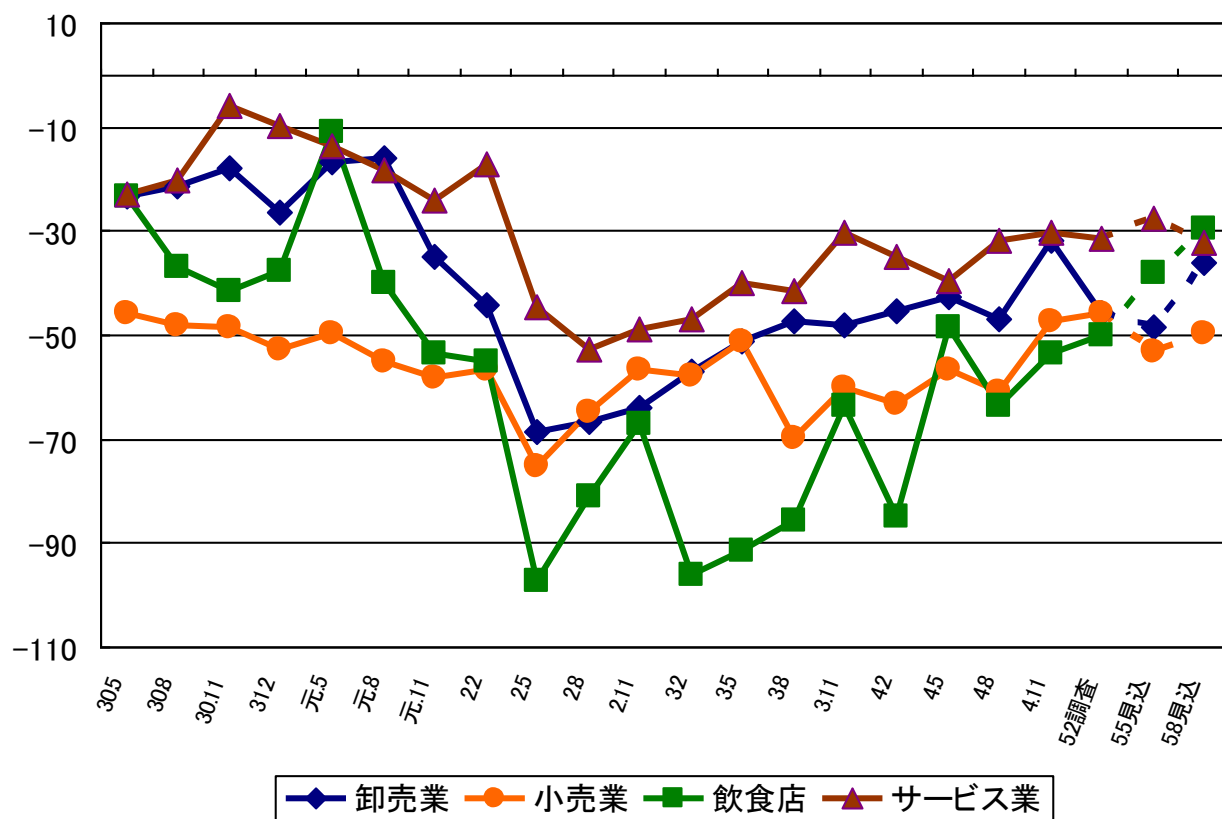
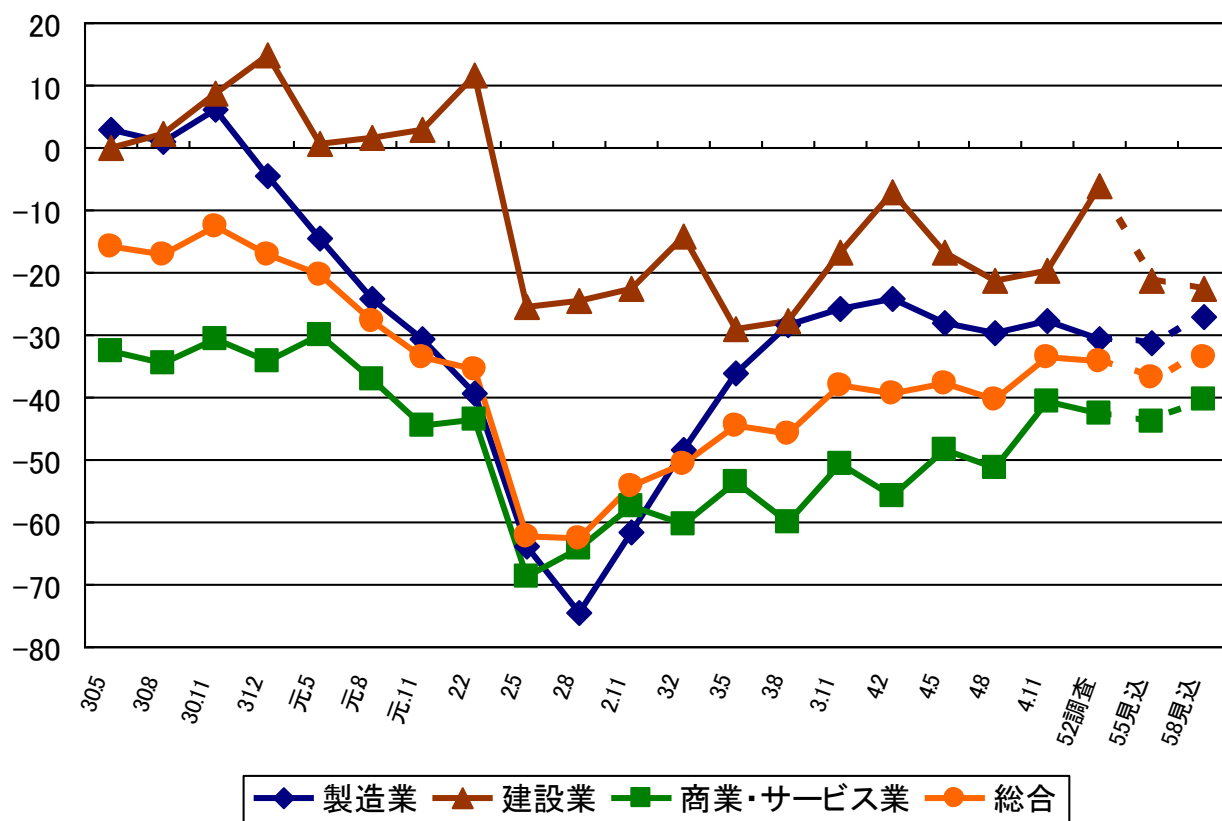
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		258	123	97	104	93	94	101	100	970
業 況 判 断	現在の業況	▲33.9	▲30.1	▲39.6	▲39.4	▲29.3	▲42.6	▲25.0	▲35.0	▲34.2
	3ヶ月後の業況	▲36.0	▲37.8	▲33.7	▲42.7	▲35.6	▲44.1	▲29.0	▲36.5	▲36.8
	半年後の業況	▲27.3	▲33.3	▲34.8	▲48.5	▲33.3	▲39.1	▲29.3	▲33.0	▲33.7
経 営 状 況	売上	▲21.1	▲25.4	▲14.4	▲30.8	▲22.6	▲26.6	▲23.8	▲17.0	▲22.5
	採算	▲37.5	▲35.2	▲37.1	▲40.4	▲34.4	▲40.4	▲37.6	▲43.4	▲38.1
	引き合い／客数	▲23.7	▲20.5	▲18.8	▲31.7	▲23.7	▲35.1	▲11.9	▲21.2	▲23.3
	単価	▲4.7	3.4	14.4	▲14.4	9.8	3.3	▲4.0	▲8.2	▲0.9
	仕入価格	▲79.9	▲78.5	▲76.8	▲80.4	▲90.2	▲79.8	▲74.7	▲81.6	▲80.1
	資金繰り	▲31.1	▲21.3	▲33.0	▲38.5	▲23.9	▲33.0	▲27.7	▲37.4	▲30.6
	残業	▲17.8	▲13.0	▲14.9	▲16.5	▲15.2	▲24.7	▲13.1	▲14.1	▲16.3
	設備稼働	▲13.4	▲12.3	▲5.0	▲26.5	▲18.4	▲13.5	▲7.8	▲15.0	▲13.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲21.3	▲14.8	▲16.5	▲22.1	▲20.4	▲21.3	▲21.8	▲17.0	▲19.6
	利益水準	▲15.6	1.6	▲17.5	▲17.3	▲9.7	▲11.7	▲7.9	▲15.0	▲12.0
	在庫	2.5	3.4	3.2	5.0	4.4	21.5	▲3.1	9.3	5.2
	投資	▲10.0	▲2.5	▲6.4	▲17.6	▲23.3	▲2.1	▲8.2	▲13.3	▲10.2
	雇用状況	▲23.6	▲27.6	▲24.7	▲30.1	▲30.4	▲22.3	▲13.1	▲19.0	▲23.9

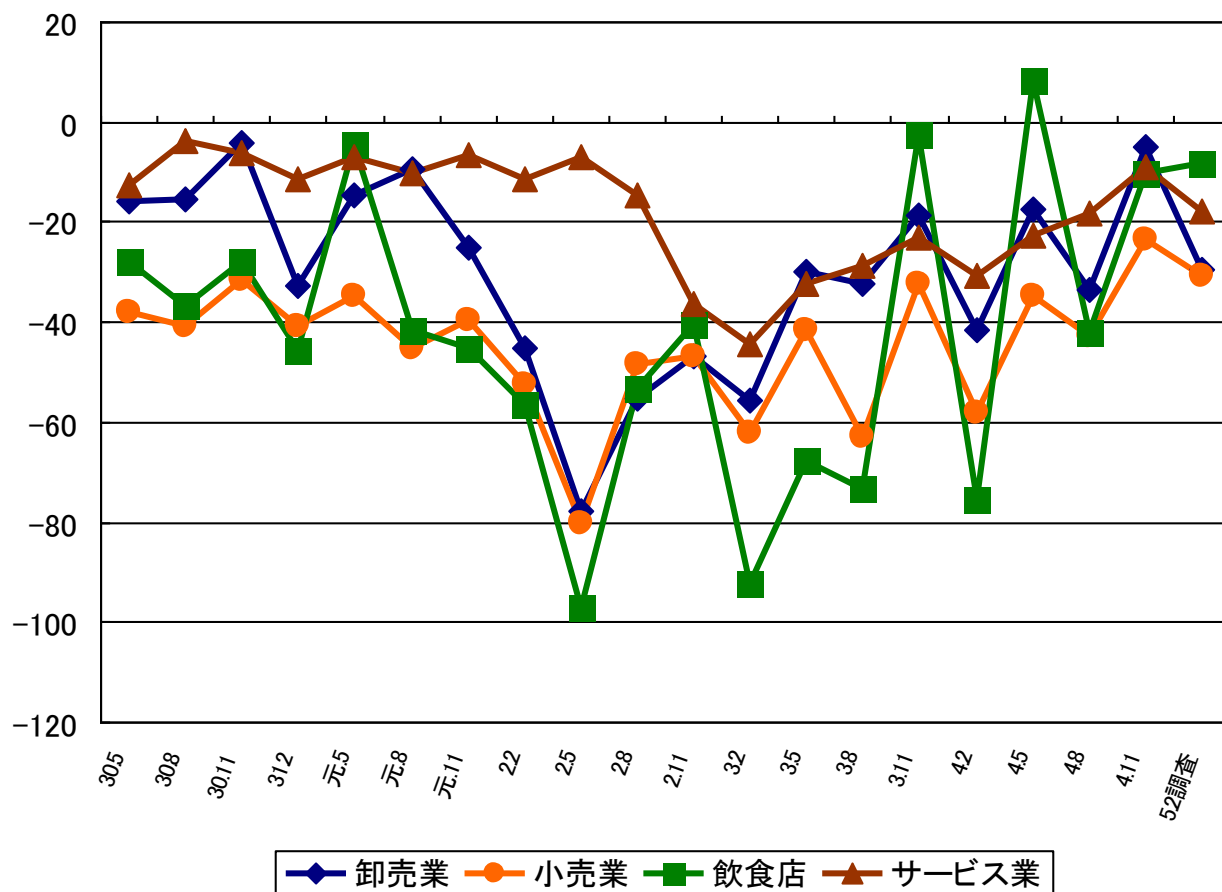
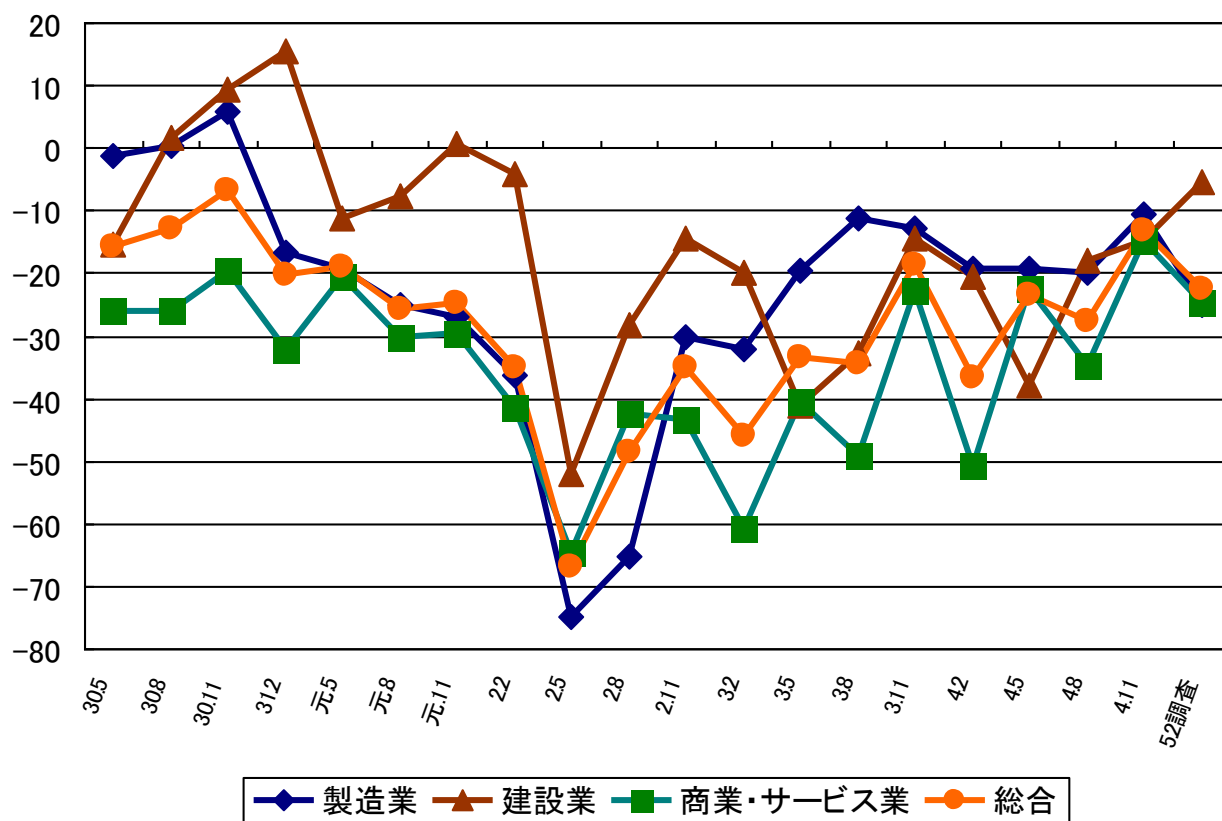
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		82	80	53	120	335
業 況 判 断	現在の業況	▲25.6	▲23.8	▲37.7	▲35.8	▲30.7
	3ヶ月後の業況	▲20.5	▲38.8	▲38.5	▲29.8	▲31.2
	半年後の業況	▲17.9	▲30.4	▲30.8	▲29.2	▲27.0
経 営 状 況	売上	▲22.0	▲26.3	▲28.8	▲25.0	▲25.1
	採算	▲37.8	▲38.8	▲46.2	▲38.3	▲39.5
	引き合い／客数	▲18.3	▲10.0	▲13.5	▲26.7	▲18.6
	単価	8.8	11.3	15.7	4.2	8.8
	仕入価格	▲85.4	▲88.8	▲75.0	▲85.8	▲84.7
	資金繰り	▲24.4	▲28.8	▲35.8	▲31.1	▲29.6
	残業	▲14.6	▲11.3	▲7.7	▲20.0	▲14.7
	設備稼働	▲16.0	▲3.8	▲15.1	▲25.0	▲16.2
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲8.5	2.5	▲20.8	▲19.2	▲11.6
	利益水準	4.9	6.3	▲15.1	▲9.2	▲3.0
	在庫	18.2	20.0	7.7	10.3	14.1
	投資	2.6	▲6.3	▲13.2	▲5.1	▲4.9
	雇用状況	▲28.4	▲25.0	▲20.8	▲17.6	▲22.5

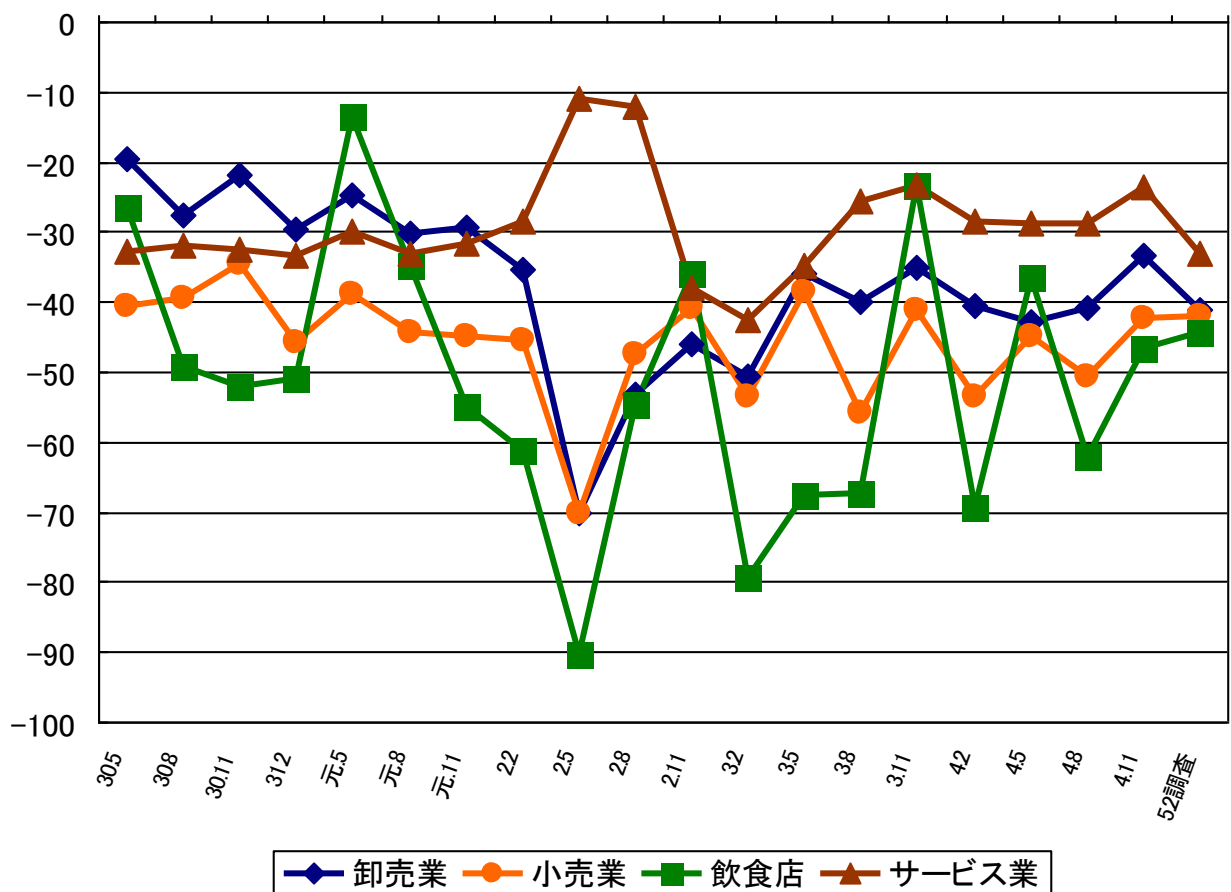
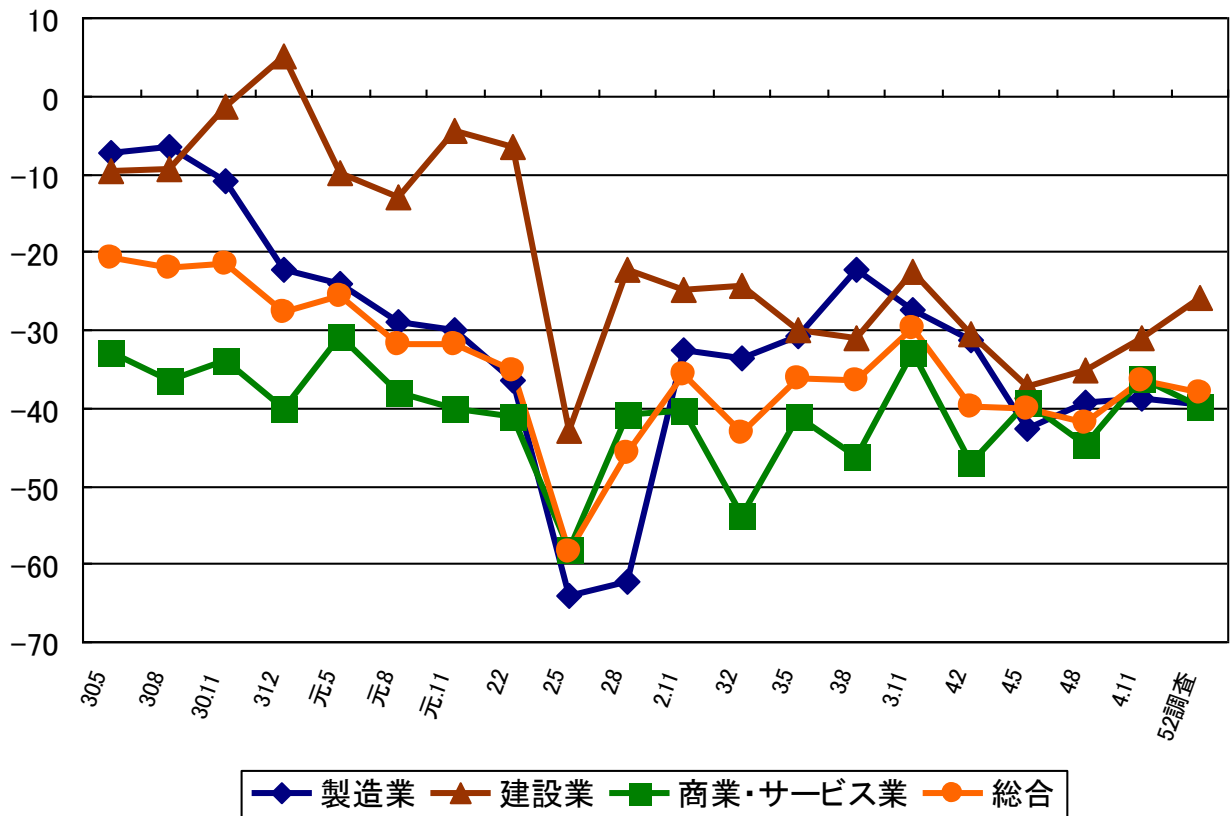
業況DIの推移



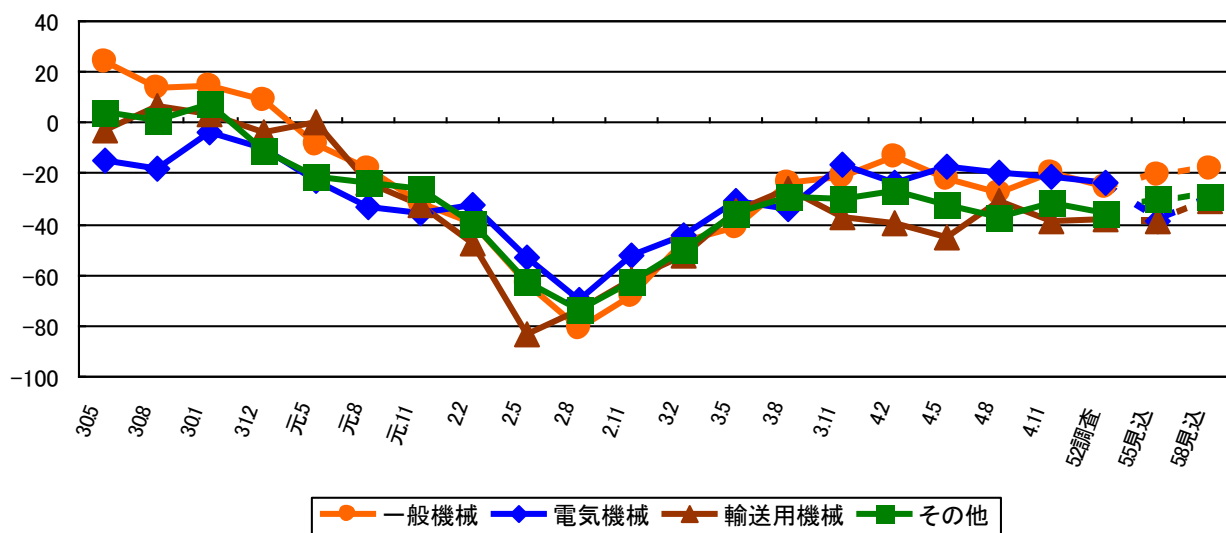
売上DIの推移



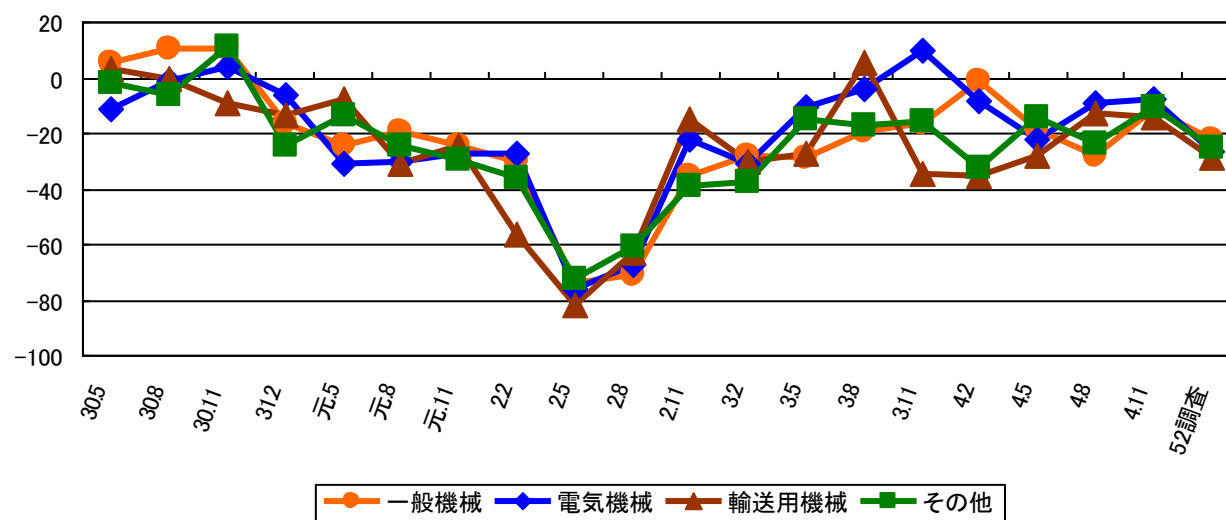
採算DIの推移



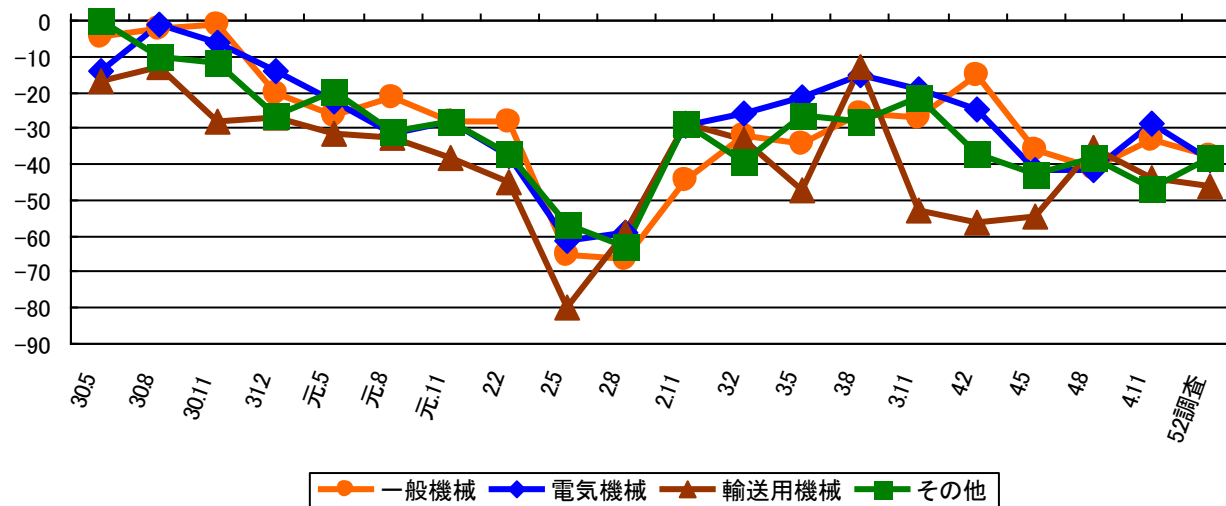
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「資材等の高騰あるが、売価に転嫁することが出来ている。」
「設備のメンテナンス、修理等が多い為、不調である。」
「円安のため、部材の購入費用が上昇しているため、販売が思わしくない。」
「自動車関連が不調（部品不足）の為、予定がどんどん延びている。」
「少しづつではあるが、上向きに感じる。但し、長いスパンで見るとまだまだ先行き不透明。」
「2月は、やっとコロナ前の売上となった。3月からも、この調子が続く為、何をしたら良いかを考える。」
「コロナ禍になり、材料が高くなり、入荷も遅くなり、仕方なく材料のコスト、納期を考え、頭を抱えている。飲食店ばかり良くされていたが、工場や私達のような職業に対してはほぼ何もない状態で、まわりでは仕事が止まっていたり、辞めざるを得ない状態となり、いつ当社もそうなるか不安である。借入金も長期返済などをもっと取り入れて欲しい。下請も苦しく、支払いが滞っているので困っている。パートの女性で重い荷物を持っている。大変だが、やらないと人件費がかかり大変です。」
「圧倒的に既存顧客からの注文が減少する中で、価格交渉に応じて頂けないお客様や製品は、対応を辞退せざるを得ない場面も多くあり、量の不足により、競争力の有無以上に不採算覚悟で受注獲得を行っている同業他社が増加していると推察している。」
「仕入材料等、電気代の値上げで、採算的に厳しい状況が、今年も引続きます。引き合い計画も、昨年より増えているが、計画通りに発注が決まっていない。」
「自動車が電動化されると言われているが、それに対する設備投資の勢いが感じられない。」
「顧客の部品調達が安定していないことが懸念点。社員の高齢化が進んでおり、若年の新規採用が課題。」
「船舶関連事業取込により、売上が伸張。今後、航空機関連の仕事も復調するので、業績も上向く事を期待。」
「ホテル向け省エネ電子機器の製造販売メーカーです。ここに来て、力の残っているホテルからのオファーがSDGsの追い風に寄って増えています。時に大阪万博のせい、関西からの引き合いが多くなっています。」
「原材料、加工費、運賃等、コストが上がる一方だが、取引先が値上げを認めてくれず、状況が悪化している。」
「事業の縮小・拡大を柔軟にできる体制づくり、技術の管理体制づくり、販売体制づくり、マーケティングも含め、見直しの連続である。リスク分散を構築したい。」
「主に自動車関連業種の客先については、生産調整の関係で波があり、且つ発注後の納期が短い傾向にある為、社内にて対応出来ない場合の外製費用がかさんでいる。」

<建設業>

「公共工事の受注競争激化のためと、人員不足の為、民間工事の受注も難しい。」
「作業員の退社で、仕事に取りにくい。」
「大型物件がなくなった。今後は変わらないと思う。」
「民間事業数の減少。」
「仕入価格の上昇。」
「令和4年10月～令和5年9月期について、長期工事受注済の為、来期に売上増により、今期は赤字の予定。」
「受注はそれほど落ち込みがないが、仕入単価と人材単価の上昇が徐々に利益を圧迫してきそう。人材採用がますます厳しくなっている。」
「民間の設備工事は、皆無に等しいです。公共の工事分は、期末には仕上がらない状態です。工期延長、内容変更等で、先延ばし。」
「以前から予定していた工事が予定通り受注に向けたら、良いようですが、予定外の工事とのバランスが大変です。」

<卸売業>

「小売店が販売不振で、お店をやめて行くので、大変心配しています。（これから先続けられるか。）」
「年度末までは、官公庁向けの役務等で売上げが見込まれます。4月以降、レジャー向けに関しては、小売価格値上げの影響がどう出るか現時点では不透明です。」
「仕入価格が上昇しているものの、転嫁も出来ていることから、好調傾向である。」
「物価高による消費マイナスマインドがあり、インバウンドへの期待しかないのでは。」
「全体的に少し活発になってきたと感じる。」
「1月に入り、少し上向きになって来たと感じております。見積りの数量も昨年とは違い、多い数量になってきました。このまま上昇していければ良いのですが。。。」
「米国からの輸入価格が高くなってきた。日本国内の新規開拓を進めているところ。」
「昨年末はコロナ規制が緩和されたので、売上が好調でした。今後は、円安、原料高により、仕入価格が上がり、物価高もあり、売上が減ってくると予想される。」
「ガソリン、光熱費の値上げや仕入れ価格の値上げで商品に価格転嫁できていないです。家庭でもそうですが、製造にかかる光熱費の節約には限度があるため、悩ましいです。」

<小売業>

「Webサイトの移行により、売上減が未だ戻らず、地域の野菜等は動くが、粗利は少ない。全体的なイメージは、お金は使いたくないが、楽しみたい。時間を過ごしたい。目の前の人より得をしたい。比較対象の多い、大きい施設を好むデジタル決済の手数料が高すぎる。決済手数料と入金手数料の2重取りが知られていない。大手には都合の良い事ばかりが。」
「肉の贈り物が多く好調です。少なくとも1万円位は売上がある。多い人で10万円を越した人が2人いました。」
「仕入先より、販売ルートから外れるので、商品を卸すことが出来ないと言われました。小売店（高齢の方が多と思われる。）がなくなることをが寂しいです。また、仕入先を見つけるのが大変です。」
「近隣のスーパーが閉店。客足少なく、経営が難しくなった。」
「マスク着用の為、お化粧する人が減っています。洋服の注文もほとんどなし。キャンペーンセールしても、売上上がらず。」
「客単価が低くなっている。商品見直し、人材高齢化、社員の年齢層を下げる。」
「今まで経験したことがないくらい、客が来ない。商店街がダメになっている。」
「コロナの影響がどうなるか？先行き不透明です。」
「町の小売店の閉店が進んでいる。買い物客が安価を求めて、町の小売店に足を向けなくなっている。その条件の中で、頑張っている店もある。特徴のある商品を作るには人手がいります。従業員の高齢化の進む中で、店の存続も考えに入れている昨今です。」
「仕入価格が高騰しているが、価格転嫁できない商品もある。（他店との競争商品など。）」
「固定客が安定している為、業績は変わらない。」
「3月1日から値上げして、今後どうなるかどうか。」
「客層の中心である高齢者が外出を控えている間は、売上が悪い。」
「物価高の為、日本酒の客単価が下がっています。今後も益々その傾向が酷くなると思います。売上は値上げ分だけ増で、客単価減少なので忙しく感じるだけで、経費増です。」
「通販が好調なので、売上・採算は変わらないが、店売は減少。」

<飲食店>

「不調の原因は、コロナの為です。」
「コロナ後の業績に見通しもわからない為、現在様子見の状態。」
「コロナ終息の機運が高まり、季節行事、祝事等の需要が増えています。」
「ランチ営業は、コロナ前に戻りつつあります。ディナーは、団体等のグループがありません。」
「客足は伸びているが、仕入、電気、ガスその他色々上がっているが、価格転嫁できていない。」
「年末年始の売上はまあまあ良かったのですが、正月明けからは急降下。光熱費をはじめ全てと言っていいほどが値上げ。これから先も売上は見込めないのでは…。」
「人員の確保が非常に困難。」
「大幅なリストラで、店舗数、作業員数共に減少。間接部門の社員についても減少。」
「新型コロナ感染前の売上に対し、約80%まで回復しているが、当面同水準の売上見込み。」
「コロナが少し落ち着き、売上は上がって来ているが、材料、燃料などの値上げで、利益は変わらなそうです。」

<サービス業>

「消費者物価の高騰により、消費者に節約意識が強くなっていると思われ、来店頻度が落ちている。」
「燃料や資材価格の高騰が利益を圧迫し続けている。パート労働者の確保が難しい状況も続いている。」
「5G関連の開発がひと段落し、受注減となっている。ウクライナへのロシア侵攻や円安による物価高で、日本経済への影響が懸念される。コロナが5類感染症への移行で、日本経済が上向くことを期待している。」
「電気、ガス代が例年の2倍。」
「コロナ3年で借入金が増えました。仕事の関係で、ボイラーを燃やす為、ガスが3倍、電気2倍、仕入も高く機械のリースを差し引くと、賃金支給後、残りがあまりありませんから、どうしたら良いかと。」
「コロナ禍も終わりが見え始め、人の動きがよくなってきているためレンタカーの売上は戻りつつある。整備の方は油脂類の価格高騰により価格転嫁、レバレート上げを実施した。しかし、車自体が消耗部品交換や故障が少なくなっているため年々単価は下がっているため他の方法を考えていかないと生き残れない。車販は新車納期がまだ落ち着かないため中古仕入れが厳しい。」
「ガス、電気に国の補助が入った事により、経費が軽減。収益に反映されている。顧客稼動も上昇したことにより、売上も安定。」
「業務案件数は増えているが、人材採用（中途）の動きが悪く雇用出来ない状況。雇用が出来れば、売上・利益も増幅出来る見込み。」